

丹頂たんちやうの之舞まい

佐々木ささき 岳がく 甫ほ

寒山かんざん映うつし出いです青湖せいこの水みづ

丹頂たんちやう来きたり遊あそぶ釧路くしろ州しゅう

忽たちまち霧煙むえん散さんじて旭日きやくじつ昇あれば

東天とうてんの比翼ひよく瑞鳴ずいめい悠ゆうなり

【作者】佐々木岳甫(一九〇七〜一九八〇年)(明治四十年〜昭和五十五年)、現代漢詩家、札幌の人、宣伝美術家、クラブ工芸社社長の傍ら

吟詠評論家として活躍した。昭和五十五年七十三歳で没した。

【語釈】\*丹頂…丹頂鶴のこと。 \*寒山…阿寒岳。 \*青湖…青々とした湖沼。

\*比翼…二羽の鳥が翼を揃えて飛ぶこと。 \*端鳴…めでたい鳴き声。

【通釈】阿寒岳が映っている青々とした釧路の湖に、丹頂鶴が飛んできて遊んでいる。突然、霧が晴れて朝日が昇つてくると、東の空に二羽の夫婦鶴が、めでたい鳴き声をあげながら、悠々と飛んでいる。